

第18回

今年も「善福寺川 水鳥一斉調査」を行いました!!

【水鳥一斉調査の目的】

現在の善福寺川の自然を知ること、区民の皆さんにもっと善福寺川に注目してもらうことを目的に、善福寺川でどんな水鳥が、どこで、どれくらい利用しているかを一斉に調べる、

「善福寺川 水鳥一斉調査」を実施しました。水鳥以外の鳥もあわせて調べました。

＜実施日＞ 令和8年1月10日(土)10:00~11:30 (区民参加調査)

1月10日(土)10:00~12:00 (専門家調査)

【調査の方法】

区民の皆さんと善福寺川の自然を再確認する＜区民参加による水鳥調査＞と、善福寺川全域の水鳥の利用状況を把握する＜専門の調査員による水鳥調査＞を行いました。

＜調査ルート＞



＜区民参加による水鳥調査＞

善福寺公園コース（善福寺公園）、善福寺川緑地コース（仲よし広場～尾崎橋）、和田堀公園コース（尾崎橋～和田堀池）において、善福寺川流域の小学校の児童とともに、鳥に詳しい先生の解説を受けながら、善福寺川を利用する鳥について観察し、種類や個体数を記録しました。



＜専門の調査員による水鳥調査＞

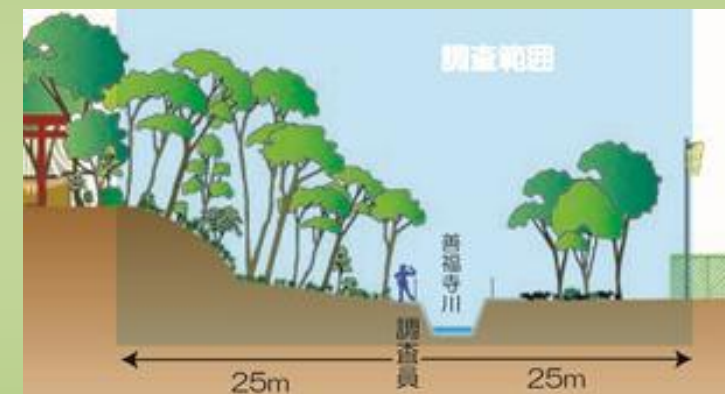
善福寺川を6区分し、それぞれの区間に約2kmの調査ルート（A～F）を設定、各ルートに出現する鳥類の確認を同時間一斉に実施しました。

調査は、一定の速度で2時間歩き、ルート上の幅50m（片側25m）の範囲に出現する鳥類の種類、個体数、諸行動について記録しました。

各ルートについて、Aルートは池の周辺に樹林や植栽帯、池内にヨシや低木が点在しています。B・Cルートは住宅地内、D・Eルートは緑地内をそれぞれ川が流れて、Fルートは住宅地からビル街にかけて川が流れています。



池があるAルート



善福寺川沿いに緑地が広がるD・E・Fルート



専門の調査員による調査風景

今年の水鳥調査参加小学校

参加小学生による調査記入シート

小学生による調査では、善福寺川で見られる鳥の絵が描かれた調査シートを用いて、今回見られた鳥の数を「正」の字を使って記入していきます。

コース	1. 善福寺公園	2. 善福寺川緑地	3. 和田堀公園	学校	水鳥	お名前
-----	----------	-----------	----------	----	----	-----

水鳥集計表 調査日：令和8年1月10日

鳥の名前	見つけた鳥の数	鳥の名前	見つけた鳥の数
アオサギ	正正正正正正正正	カイツブリ	
アオジ	正正正正正正正正	カルガモ	
アカハラ	正正正正正正正正	カワウ	
ウグイス	正正正正正正正正	カワセミ	
エナガ	正正正正正正正正	カワラヒワ	
オオタカ	正正正正正正正正	キジバト	
オオバン	正正正正正正正正	キセキレイ	
オカヨシガモ	正正正正正正正正	キンクロハジ	
オシドリ	正正正正正正正正	ゴイサギ	
オナガ	正正正正正正正正	コガモ	
オナガガモ	正正正正正正正正	コブラ	
		コサギ	

善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業
杉並区では平成20年度から、区民とともに多様な動植物が生息・生育・繁殖できる潤いと安らぎのある水辺環境を再生・創出することを目的として、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業に取り組みんでいます。この事業の一環として、毎年冬に水鳥一斉調査を実施しています。調査結果については、杉並区公式HPに資料を載せていますのでご覧ください。

今年に参加小学校

第18回を迎える今年は、小学校18校100名の生徒さんと、その保護者の方々86名の合計186名が参加しました。また、12名の解説員の先生に協力いただきました。

調査コース	参加小学校	参加人数	解説員	☆補助解説員
善福寺公園コース	井荻 桃井第三 杉並第一 桃井第四 桃井第一 桃井第五 桃井第二	小学生：27名 保護者：23名	谷口 高司 氏 谷口 律子 氏 西村 眞一 氏 安西 英明 氏	伊澤 佳伸 氏 荒川 裕美 氏
善福寺川緑地コース (仲よし広場～尾崎橋)	杉並第二 西田 堀之内	小学生：27名 保護者：27名	井上 耀右 氏 谷島 みどり 氏 六車 貴美子 氏	若田 純子 氏
和田堀公園コース (尾崎橋～和田堀池)	大宮 東田 杉並第七 方南 済美 松ノ木 浜田山 和田	小学生：46名 保護者：36名	石原 美鈴 氏 渡辺 博重 氏 佐々木 幹夫 氏 石原 武 氏 伊藤 晴康 氏	近藤 正喜 氏 桜井 聡 氏 大野 篤子 氏 川口 達也 氏
計	18校	小学生：100名 保護者：86名		

☆補助解説員…すぎなみ地域大学「水鳥等調査・解説員育成講座」の修了生。
将来、解説員としてご活躍いただくために研修の一環としてご参加いただきました。

今年に参加小学校の位置図

今年も善福寺川流域の小学校（18校）に参加いただきました。



解説の状況



コサギが泥の中で足を震わせて、驚いて出てきたドジョウやエビを狙っています。



身近な鳥のヒヨドリは、実は世界に日本と朝鮮半島にしか分布していない珍しい鳥です。

体が小さいメジロは、ツバキ等の花びらに足をかけ、頭を突っ込んで花粉を食べます。



双眼鏡は、まず肉眼で鳥を見て、姿勢をそのままに目に当てると良く観察できます。



アオサギは英語でグレーヘロンと呼びます。日本名には、日本の美意識を感じますね。



これはカラスのつばさの羽です。地面にはいろいろな鳥の羽が落ちています。

区民参加による水鳥調査の結果

◇調査結果(確認した鳥と数)

今年の調査では、カルガモが最も多く見られた「水鳥」でした。

「水鳥以外」では、ヒヨドリ、ドバト、シジュウカラなどが多くみられ、一部でモズやツグミなどの冬鳥や、猛禽類であるオオタカやトビも観察できました。

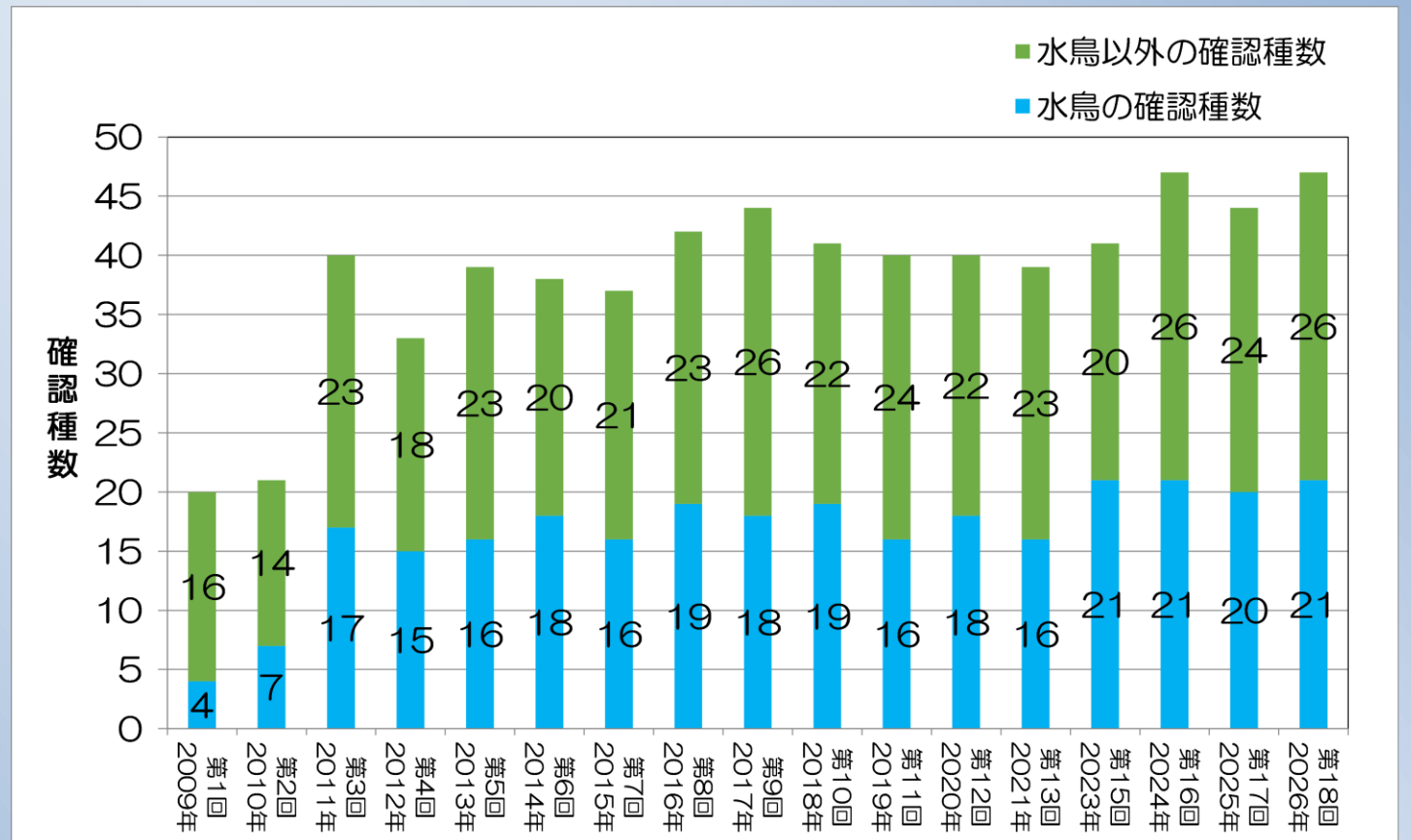
	善福寺公園コース	善福寺川緑地コース	和田堀公園コース
各コースで多く見られた上位3位の水鳥と確認数	 キンクロハジロ (3~35羽)	 カルガモ (4~29羽)	 カルガモ (2~37羽)
	 カルガモ (2~35羽)	 キンクロハジロ (2~16羽)	 ハクセキレイ (2~10羽)
	 ホシハジロ (1~25羽)	 マガモ (2~7羽)	 コガモ (1~10羽)
その他水鳥	アオサギ (1~13) オオバン (1~7) オナガガモ (1~4) カイツブリ (1~10) カワウ (1~3) カワセミ (1~4) キセキレイ (1) ゴイサギ (1~8) コガモ (1) コサギ (1~2) ダイサギ (1~2) ハクセキレイ (2~6) バン (1~16) ヒドリガモ (1~21) マガモ (1~4)	アオサギ (1) オカヨシガモ (1) オナガガモ (1) カワウ (1~3) カワセミ (1~4) キセキレイ (2~5) コガモ (1~2) コサギ (1) ダイサギ (1) ハクセキレイ (1~7) バン (1) アイガモ (1)	アオサギ (1~9) オオバン (1) オナガガモ (1~5) カワセミ (1~2) キセキレイ (1~7) キンクロハジロ (1~6) ゴイサギ (1~4) コサギ (1~2) ダイサギ (1~3) バン (1~2) ヒドリガモ (7) マガモ (1~2) アイガモ (2) セグロセキレイ (2)
種数計	18	15	17

どのコースでも「カワセミ」は観察されました

◇確認された鳥の種数の推移

今年はこれまでで最も多くの水鳥(21種)を観察することが出来ました。

また、天気が良かったことから水鳥以外の鳥も観察しやすく、26種を観察することが出来ました。



◇今年確認された主な水鳥たち



専門の調査員による水鳥調査の結果 1

善福寺川全体で40種類の鳥類（うち、水鳥は19種）を確認（※雑種は除く）

- 最も多く見られた鳥は、
1位 ヒヨドリ (172羽)
2位 カルガモ (170羽)
3位 ドバト (139羽)

- 最も多くの鳥が確認されたルートは、
Aルート（善福寺公園）(319羽)

- 最も多くの鳥の種類が確認されたルートは、
Aルート（善福寺公園）(32種)



Aルート

確認された鳥の種群ごとの合計個体数(羽)

注1) グラフの値は、種群ごとの合計個体数(羽)
注2) 円グラフの大きさは、確認個体数の値の大きさに合わせています。

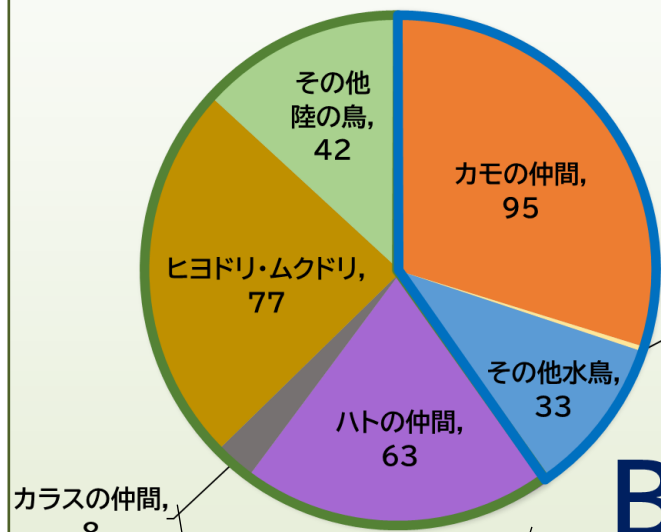
Eルート

Cルート

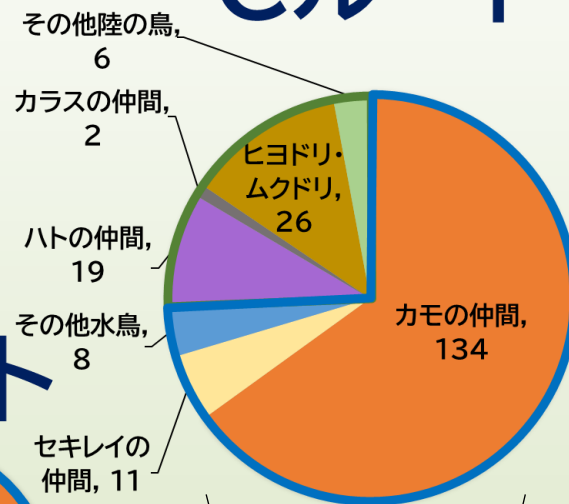
Fルート

Bルート

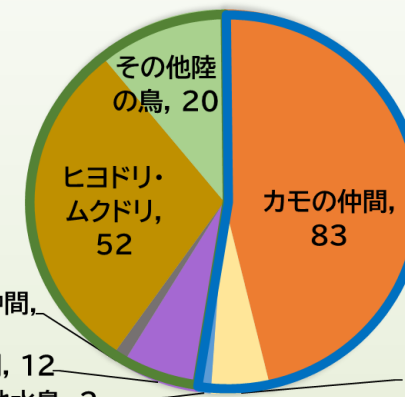
Dルート



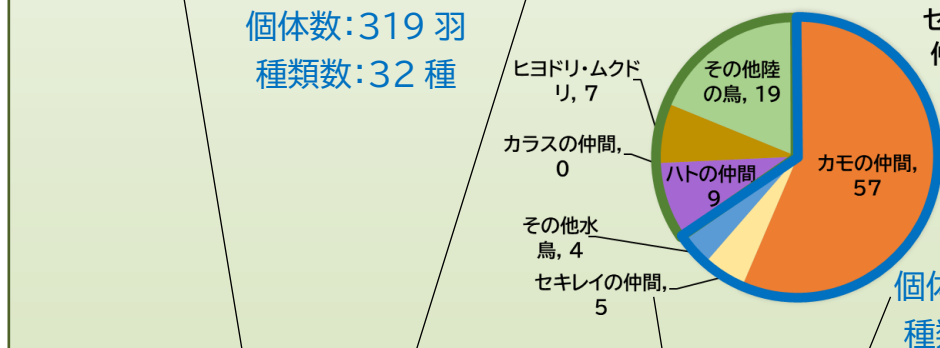
個体数:319羽
種類数:32種



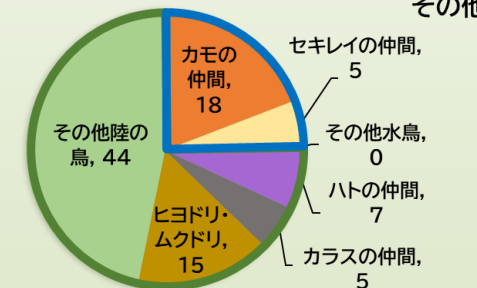
個体数:206羽
種類数:18種



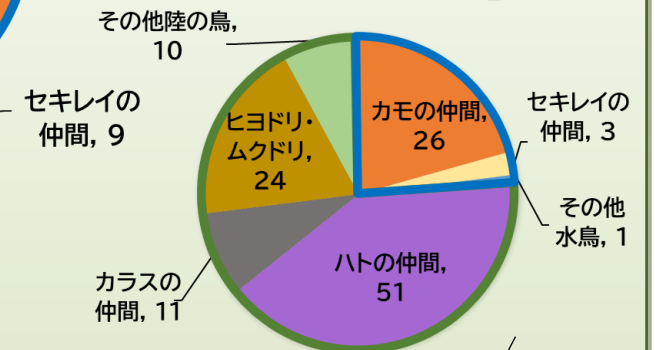
個体数:180羽
種類数:17種



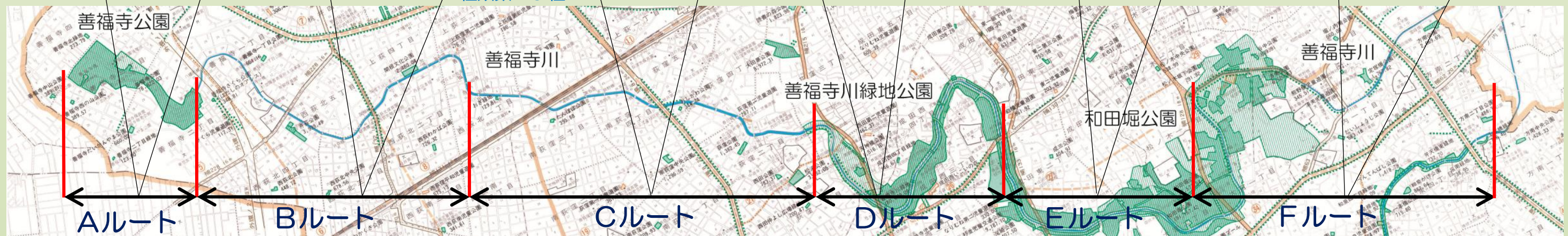
個体数:101羽
種類数:15種



個体数:94羽
種類数:16種



個体数:126羽
種類数:14種



専門の調査員による水鳥調査の結果 2

◇善福寺川における18年間(18回調査)の「水鳥」の確認状況 (※雑種は除く)

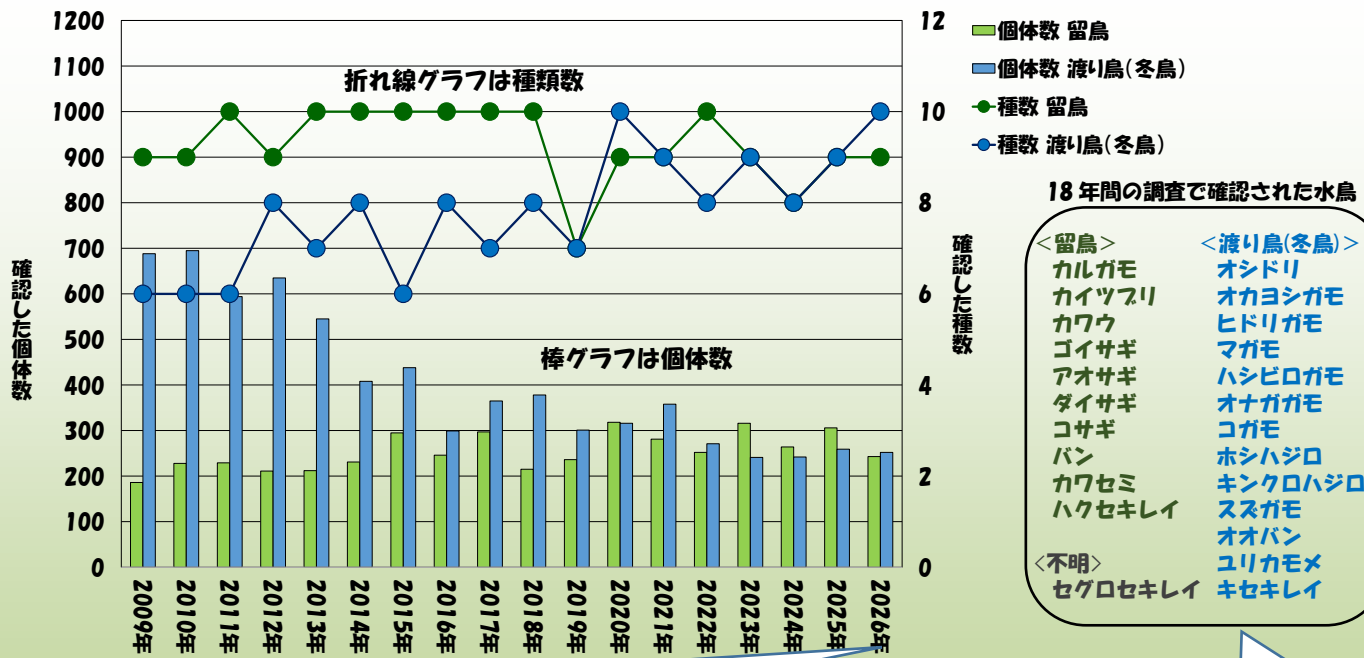


18回の調査で
確認された回数

	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
16~18回 ほぼ毎回観察 される水鳥	<p>マガモ カルガモ オナガガモ キンクロハジロ カイツブリ ゴイサギ アオサギ カワセミ</p>	<p>カルガモ オナガガモ コガモ コサギ ハクセキレイ</p>	<p>カルガモ オナガガモ コガモ コサギ キセキレイ ハクセキレイ</p>	<p>カルガモ ハクセキレイ</p>	<p>カルガモ オナガガモ ハクセキレイ</p>	<p>カルガモ オナガガモ コガモ ハクセキレイ</p>
6~15回	<p>ハンビロガモ コガモ ホシハジロ ハン オオバン コサギ ハクセキレイ カワウ</p>	<p>ヒドリガモ マガモ ハンビロガモ キンクロハジロ ダイサギ キセキレイ カワウ カワセミ</p>	<p>ヒドリガモ ハンビロガモ キンクロハジロ ダイサギ セグロセキレイ カワウ カワセミ</p>	<p>オナガガモ コガモ キンクロハジロ キセキレイ カワウ カワセミ</p>	<p>マガモ コガモ キンクロハジロ キセキレイ カワウ カワセミ</p>	<p>コサギ キセキレイ</p>
3~5回	<p>ダイサギ キセキレイ</p>	<p>ホシハジロ セグロセキレイ</p>	<p>ホシハジロ</p>	<p>コサギ</p>	<p>ホシハジロ コサギ</p>	<p>マガモ ホシハジロ キンクロハジロ</p>
1~2回 観察は 稀な水鳥	<p>オカヨシガモ ヒドリガモ コリカモメ スズガモ</p>	<p>スズガモ</p>	<p>オンドリ マガモ オオバン ゴイサギ アオサギ チュウサギ</p>	<p>ホシハジロ アオサギ セグロセキレイ</p>	<p>カイツブリ ハン アオサギ</p>	<p>ダイサギ カワウ</p>
確認された種類数	21種類	16種類	20種類	12種類	14種類	11種類

専門の調査員による調査結果 3 (18年間の調査のまとめ)

◇水鳥における渡り鳥と留鳥の確認状況の変化 (※雑種は除く)



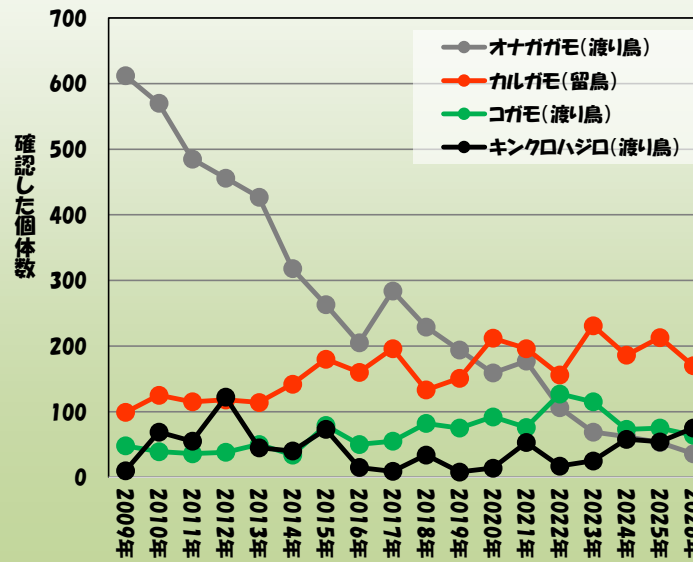
冬の時期にみられる善福寺川の水鳥は、2019年頃まで渡り鳥(冬鳥)の個体数が徐々に減少していましたが、種数は少しずつ増加してきています。留鳥は少しずつ個体数が増えてきており、最近では、渡り鳥(冬鳥)と留鳥は種数も個体数も同じ程度の確認数となっています。

鳥は、一年中その場にいる留鳥と定期的に長い距離を移動する渡り鳥に分けられます。

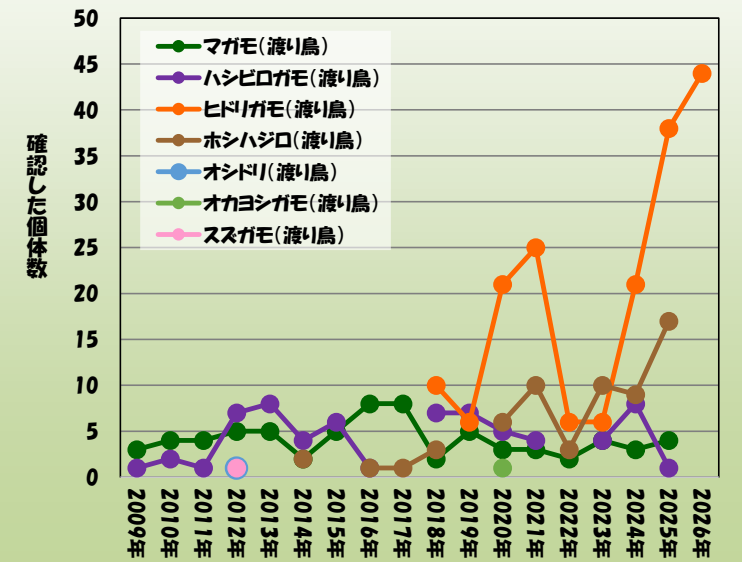
渡り鳥の個体数は、気候変動や繁殖地の環境変化などに影響を受けます。オナガガモに着目すると、2009年には約600羽も確認されていましたが、毎年のように個体数が大きく減少しています。これは、かつて多く見られた餌やりがなくなったことが大きな要因と言われています。生きものとの望ましい関わり方の理解が進んだものとも考えられます。

一方で、カルガモが少しずつですが個体数が増え、2020年にカルガモがオナガガモに逆転しています。また、近年キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロにも増加傾向がみられています。

主なカモ類の確認個体数の推移



その他のカモ類の確認個体数の推移



◇善福寺川と杉並区全域の確認種の比較

18年間の冬の調査で、善福寺川では50種類以上もの鳥を確認することが出来ました。このうち、水鳥は25種類(雑種を除く)で、一部種類は異なりますが、杉並区全域で確認されている水鳥(26種類)とほぼ同数であることがわかりました。水鳥以外の鳥についても、杉並区全域で観察される鳥の種類の半分以上を観察できることがわかりました。

分類	目	科	種名	渡り区分	善福寺川	杉並区全域※1		
水鳥	カモ	カモ	オシドリ	冬鳥	●	●		
			ハシビロガモ	冬鳥	●	●		
			オカヨシガモ	冬鳥	●	●		
			ヨシガモ	冬鳥	●	●		
			ヒドリガモ	冬鳥	●	●		
			カルガモ	留鳥	●	●		
			マガモ	留鳥	●	●		
			オナガガモ	留鳥	●	●		
			コガモ	留鳥	●	●		
			ホシハジロ	留鳥	●	●		
			キンクロハジロ	留鳥	●	●		
			スズガモ	留鳥	●	●		
			マガモ×カルガモ	不明	●	●		
			カルガモ×オナガガモ	不明	●	●		
			アヒル	留鳥	●	●		
			ツル	クイナ	バン	留鳥	●	●
			カイツブリ	カイツブリ	オオバン	留鳥	●	●
			チドリ	チドリ	コチドリ	留鳥	●	●
					シギ	留鳥	●	●
					ヨシサギ	留鳥	●	●
			カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	●	●
					ゴイサギ	留鳥	●	●
			ベリカン	サギ	アオサギ	留鳥	●	●
					ダイサギ	留鳥	●	●
					チュウサギ	留鳥	●	●
					コサギ	留鳥	●	●
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	●	●			
		セキセイ	留鳥	●	●			
スズメ	セキセイ	ハクセキレイ	留鳥	●	●			
		セグロセキレイ	不明	●	●			
計(雑種を除く)					25	26		

分類	目	科	種名	渡り区分	善福寺川	杉並区全域※1		
水鳥以外の鳥	カモ	カモ	アマツバメ	旅鳥	●	●		
			ヒメアマツバメ	旅鳥	●	●		
			カッコウ	旅鳥	●	●		
			ハト	留鳥	●	●		
			タカ	タカ	ハイタカ	不明	●	●
					オオタカ	留鳥	●	●
					トビ	不明	●	●
					ノスリ	不明	●	●
					コゲラ	留鳥	●	●
					アオゲラ	留鳥	●	●
					キツツキ	留鳥	●	●
					ハヤブサ	不明	●	●
					サンショウクイ	不明	●	●
					カササギ	留鳥	●	●
			カラス	カラス	モズ	冬鳥	●	●
					カケス	不明	●	●
					オナガ	留鳥	●	●
					ハシボソガラス	留鳥	●	●
					ハシブトガラス	留鳥	●	●
					ヒガラ	冬鳥	●	●
					ヤマガラス	留鳥	●	●
					コガラ	不明	●	●
					シジュウカラ	留鳥	●	●
					ヒヨドリ	留鳥	●	●
			スズメ	スズメ	ツバメ	留鳥	●	●
					ウグイス	留鳥	●	●
エナガ	留鳥	●			●			
センダイムシクイ	留鳥	●			●			
エゾムシクイ	留鳥	●			●			
メボロムシクイ	留鳥	●			●			
ヨシキリ	留鳥	●			●			
メジロ	留鳥	●			●			
ムクドリ	留鳥	●			●			
シロハラ	冬鳥	●			●			
ヒタキ	ヒタキ	アカハラ	冬鳥	●	●			
		ツグミ	冬鳥	●	●			
		ハチジョウツグミ	冬鳥	●	●			
		エビヒタキ	留鳥	●	●			
		コサメヒタキ	留鳥	●	●			
		オオルリ	留鳥	●	●			
		キビタキ	留鳥	●	●			
		ルリビタキ	冬鳥	●	●			
		ジョウビタキ	冬鳥	●	●			
		スズメ	留鳥	●	●			
アトリ	アトリ	セキセイ	留鳥	●	●			
		アトリ	留鳥	●	●			
		シメ	留鳥	●	●			
		カウラビフ	留鳥	●	●			
		ホオジロ	不明	●	●			
		カシラダカ	不明	●	●			
		アオジ	留鳥	●	●			
		コジュケイ	留鳥	●	●			
		キジ	留鳥	●	●			
		ハト	留鳥	●	●			
インコ	留鳥	●	●					
スズメ	不明	●	●					
計(雑種を除く)					29	56		

※1「杉並区自然環境調査報告書(第8次)」 調査は1985~2023年の間に11回実施。旅鳥は除く。

◇これまでの調査で確認された注目すべき種類

国や都のレッドデータブックに掲載されている種類をみると、19種類が該当しました。これらは、善福寺公園のあるAルートで最も多く、次いでCルートで多く確認しています。

目名	科名	種名	国RD※1	東京都RD※2	これまでの調査で確認された場所					
					Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
カモ	カモ	オシドリ	DD	EN	●	●	●	●	●	●
		ホシハジロ		VU	●	●	●	●	●	●
		スズガモ		*	●	●	●	●	●	●
ツル	クイナ	バン		EN	●	●	●	●	●	●
		オオバン		CR	●	●	●	●	●	●
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		NT	●	●	●	●	●	●
		オオバン		CR	●	●	●	●	●	●
コウノトリ	サギ	ゴイサギ		VU	●	●	●	●	●	●
		ダイサギ		NT	●	●	●	●	●	●
		チュウサギ		NT	●	●	●	●	●	●
		コサギ		VU	●	●	●	●	●	●
タカ	タカ	ツミ		EN	●	●	●	●	●	●
		オオタカ		NT	●	●	●	●	●	●
		トビ		NT	●	●	●	●	●	●
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		VU	●	●	●	●	●	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ		EN	●	●	●	●	●	●
		サンショウクイ		DD	DD	●	●	●	●	●
スズメ	スズメ	モズ		CR	●	●	●	●	●	●
		カラス		NT	●	●	●	●	●	●
		オナガ		NT	●	●	●	●	●	●
		セキセイ		VU	●	●	●	●	●	
種数の合計					14	8	11	8	9	5



〈今回初めて確認された注目種〉
リュウキュウサンショウクイ
(Dコースで撮影)

※1 レッドデータブック(環境省2020)
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
※2 東京都レッドデータ(東京都2020)
CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類
VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧
DD:情報不足 * :留意種

